

活動報告書

報告者氏名：杉村 真由紀

所属：高知県立高知若草養護学校

記録日：平成26年2月26日

【対象生徒の情報】

- ・学年 高等部3年
- ・障害名 脳性まひ
- ・障害と困難の内容

(1) 本校には高等部から入学、高等学校に準ずる教育課程に在籍、自宅が学校より遠方のため寄宿舎で生活している。

(2) 学習意欲や好奇心はあるが、指示や文章の理解に弱さがみられる。そのため会話が「はい」といった受け答えになることが多い。

(3) 視覚認知の弱さがあり文字を誤認知して写すことが多い。

(4) 手指の緊張があり書字に時間がかかり、また、正確な書字ができにくい。

【活動目的】

・当初のねらい

卒業後、地元の障害者施設への就職、作業所の利用を考えており、その実現に向けて、本人の思いをiPadで他者に分かる「情報」にし、それらを支援者で共有、日常の学習支援及び就労支援に活用する。

(1) 校外学習、現場実習において関係機関との連携にメールやSNSを使い、進路実現に向けた指導・支援につなげる。メールでの実習先との連絡をとりあう。電話だけのやりとりと比較し、自分にあつた連絡の在り方を検討する。カメラ機能で、実習内容を記録し、職員の方のコメントをもらい、学校に報告する。Facebookで、本人、保護者、教職員、就労先、福祉といった関係者を含んだ就労支援グループ（非公開・秘密）を作成し、情報共有、支援につなげる。

(2) 授業での学習補助として、iPadのカメラアプリでノートテイク及び音声録音し、ノートテイクに有する時間を効率化と聴覚情報を活用した学習を促す。カメラ機能を使って、板書を画像化し、ノートテイクを補充・補強する。自主学習の習慣化をはかる。数学では、電卓機能を使って学習し、計算を簡略化して行い、数学の本質的な理解につなげる。英語では、聴力優位であり、録音して、書いて覚えるのではなく、音で単語等を覚え、また、文法理解に活用する。自筆での文章化は苦手であるがワープロ機能を活用することで、自筆よりも、自分の気持ちを表現した文章を書くことにつなげる。ストレッチ方法を、画像・動画で記録し、寄宿舎での日々のストレッチの時間で確認し、また、その記録、成果の把握に活用する。

・実施期間 平成25年4月～平成26年2月

・実施者 報告者、クラス担任（I先生、M先生）、寄宿舎指導員（S先生）

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

(1) 自分の思いをまとめて伝えることが苦手であり、会話の中では、「はい」といった受け応えが多くみられ担任団や教科担当の先生方から本当に理解しているのか分からないことが多い、返事と実際の行動とかけ離れているという意見があった。2年次の現場実習では、巡回担当教員が週3回程度、遠隔地である実習先を訪問し指導し、また、毎日の実習後の電話での本人からの報告での指導のみにとどまり、本人の思いを、支援メンバーに伝え、共有できる場が少なかった。

(2) 黒板にかかれた板書をノートに写すと、手指の緊張による書字の遅さに加え、視線が「黒板」と「手元のノート」を往復するため、視点の移動が多いことから、「書くこと」＝「文字を書き写す」ことに集中しすぎノートテイクに時間がかかり、休み時間まで要しても終わらない子が多くみられた。一方、タブレット上のキーボードでの単なる文字入力は、打ち込む動作のみとなるため、書くことに比べ、早く入力できる。

・活動の具体的内容

(1) 『Facebook』で本人を中心にグループ(秘密・非公開)を作成し、メンバーを本人、教員、寄宿舍指導員、理学療法士で構成し、時間や場所を限定せず、本人の投稿を中心に、本人の思いを伝える場をつくり、メンバーの「いいね」や「コメント」を通して、現場実習では主に「日々の実習課題」について、普通の学校生活ではノートテイクや宿題、思いを文章にする機会を作るなど、より効果的なやり方、アドバイス、取組への励ましといった支援を行った。

(2) 黒板の板書を『カメラ』で記録し、休み時間や放課後にノートに写す。書き写したノートの内容を『Facebook』に投稿する。

(3) 英単語を読み上げて、『カメラ』の動画で記録しておき、英単語を書くときに、その音声を再生しながら、学習する。

(4) 単純なゲームアプリを使って、視線の注視点を左右、上下、同じ形を見つけるといったビジョントレーニングを寄宿舍の自分の時間で行い、その結果を『Facebook』に投稿する。

・対象生徒の事後の変化

(1) 『Facebook』

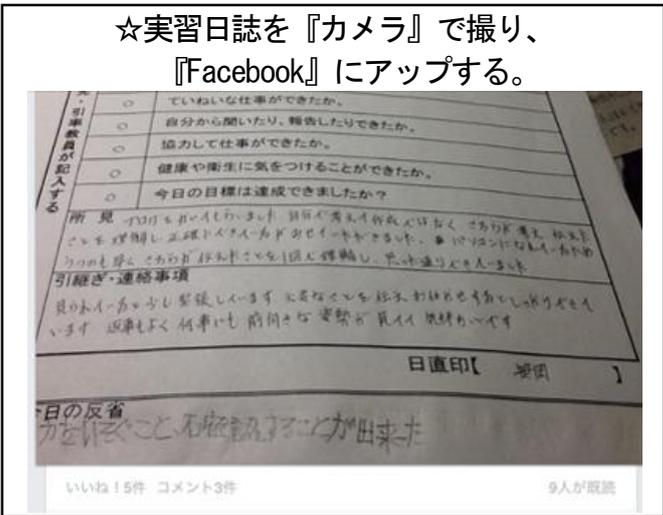
投稿総数 260回(H25.4~H26.2)

3年次の現場実習(6月、11月、1月)中、家に帰って毎日、実習日誌をカメラアプリで撮り、その日困ったことや次の日の目標を投稿することができた。

2年次は、実習日誌の内容確認については、週3回程度の巡回担当教員のみが直接行い、日々の本人からの報告は、その日実習終了後、本人が学校にかけてくる電話での支援にとどまっておき、本人としては実習内容そのものや、実習で感じたことを伝えきれていないと思うことが多かったと事後学習の中で話すことがあった。

今回の取組で、タイムラグがなく伝えられ、直接見た教員や担任だけでなく、複数の支援者に実習内容をダイレクトに伝えられることで次のような感想を書き込むことができた。

- ①自分のやっていることを、他の人に分かってもらえる。
- ②実習から学校にもどるまでに、自分から発信して書き込むことができるため、直接話をして伝えるだけより安心できる。
- ③直接話して伝えるだけだと、自分がちゃんと伝えられているのが心配を感じるし、どう伝わって応えが返ってくるか、心配だったが、この書き込みで話しにくいことが減った。
- ④毎日、先生からアドバイスがあり、工夫すればよくなるかもと、自分で考えながら実習することができた。



☆投稿内容

今日、食堂のそうじの時に範囲を決めて少しずつやってみました、やはり時間がかかりすぎました(泣)明日の目標、何にするか悩みな~

支援する教員側からも、他の実習生は実習期間が終わってから日誌を確認するが、対象生徒は、毎日見ることができるので、課題の共有を早く行うことができたことが良い、ぜひ、他の生徒にもこのような機会ができるといいとの意見がだされた。

(2) カメラアプリでノートテイクする。また、日々の宿題を

☆投稿に対するコメント

S・S
何がダメだったか。どうしてダメだったか。どうやったらできるようになるか。そんなこと考えてみたらいいかもね(^^) 頑張って!(^o^)/
6月11日 - いいね! を取り消す 3

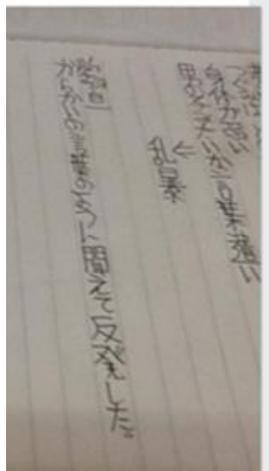
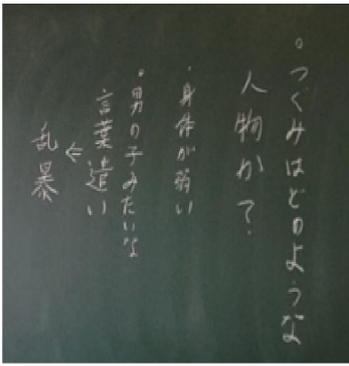
S・M
チャレンジして、実現出来そうな具体的な目標は? 頑張って、感じるか、な~。
6月11日 - いいね! を取り消す 3

I・J
掃除については今すぐ早くできるようになるものではないので、今後の課題にしましょう。PCや日中活動の中でもっと言われたことありませんか? 顔を見て話を聞くとか、返事の仕方などどうでしょうか?
6月11日 - いいね! を取り消す 1

カメラアプリで記録し、FB にアップ。

板書のノートテイクは日々のことであり、本人の負担感は強かったが、授業や休み時間を“書く”こと以外に使えることで、自発的に動ける時間を確保でき、積極的に学級活動に参加する姿が見られた。

☆国語の板書を写真に写し、寄宿舎でノートに写しなおす。
それを投稿する。

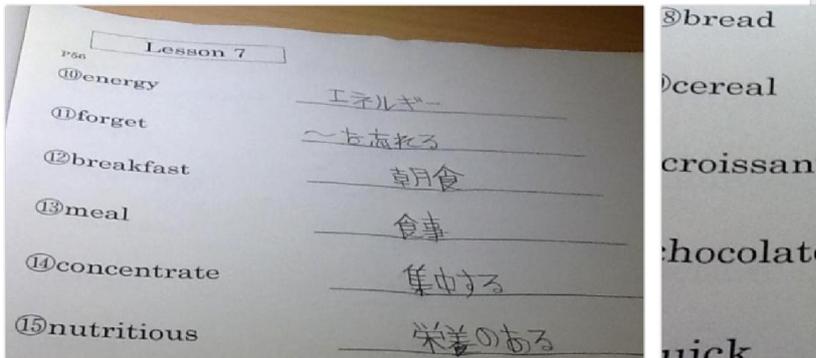


カメラ機能やメモ機能を使うことで、書く時間が少しでも短縮できるので助かっている。(本人)

(3) 英語の授業で、英単語の読み上げを録音し、聴きながら英単語を学習する。

英語担当教員がテスト問題を読み上げると正答率が高まることに手応えを感じており、音声での補助を宿題にいかすそうと、授業中に教員が生徒と一緒に英単語を読み上げ、それを録音し、寄宿舎に帰って、宿題で活用した。

英語の宿題です(^_^)昨日から授業で録音アプリを使い会話や単語を発音し録音して復習し覚える為に使ってます(^_^)毎日頑張ってる覚えています(^_^)



○単語を読み上げると理解が早くなり、単語テスト等の正答率が違ってきた。
(英語担当教員)
○音声と合わせ英単語を学習すると、音声がないときに比べ、記憶しやすかった。(本人)

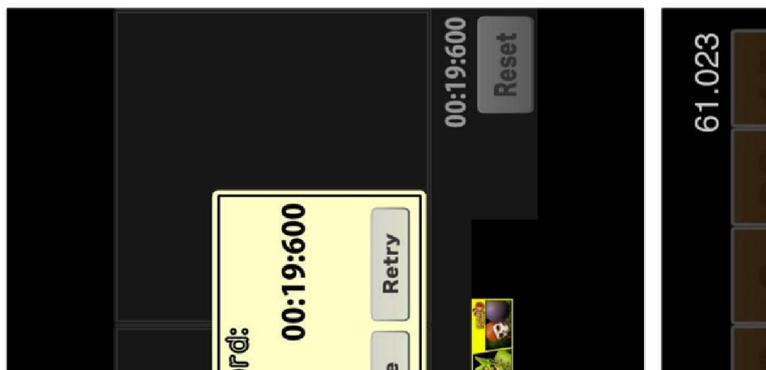
(4) ビジョントレーニング

学級担任による視機能チェックで、視機能の中の眼球運動機能や視覚情報の処理機能の弱さを確認、個別の自立活動や寄宿舎での自由時間を利用し、「簡単で続けやすい」ビジョントレーニングとして、iPadでゲームに取り組み、目の使い方や、目の筋肉を使う機会を増やしたことで、注視する力がついた。



ビジョントレーニング

ビジョントレーニングをやっている成果が出たのか、最近、少しずつですが、文字が見やすくなりました(^_^)



「タモグラたたき」「数字タッチ」「タッチカラー」といったゲームアプリ。簡単に取り組み、結果も記録しやすかった。教科書が読みやすくなった。
(本人)

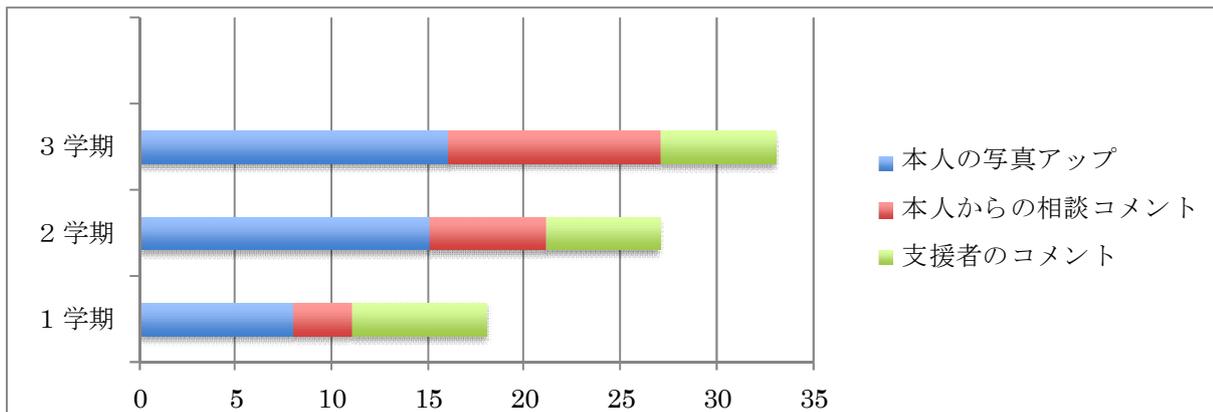
【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ①現場実習での情報共有が、本人を含めた複数名で、行うことができ、実習中の具体的な変化につなげることができた。
- ②書字の困難さを軽減し、一方、学習の記録が、本人も含め形となって残りやすく、定着につながりやすくなった。話に集中できるようになってきた。
- ③[「はい」だけの受け答えから、Facebookになる内容をもとに、会話をする機会がふえ、生徒本人の思いを伝える場ができた。

・エビデンス (具体的数値など)

- ① Facebookの中で、生徒自身が、自分のやっていること(宿題、ストレッチ、感じたことなど)を、ほぼ毎日投稿し(年間で260回近く)それに対するコメント等でのやりとりがあった。特に現場実習中の活用について、生徒担任から、実習中に担任、担任外の教員で本人の状況を共有することが確実に増え、よりの確な支援ができやすかったとの意見があった。
- ② 実習を重ねる中で、投稿数だけでなく、投稿内容としても、支援者からだけでなく、本人から発信する相談コメントが増えた。



③英語担当教諭から、今回、単元の英単語だけという限定した範囲とし、その範囲内の英単語の定着については、英単語テストの結果として定着率が8割近くまで上がり、一定の成果があったことと、本人の単語に取り組む姿勢も変わったとの意見があった。

・その他エピソード

- ① 3学期の現場実習先へのお礼状作成では、まず内容を考えながら iPad のメモに下書き原稿を作成し、推敲後、便せんに手書きで書いてみた。手書きで下書きするときは、書くことに集中し、何を書こうか浮かびにくかったが、iPad に入力するときは、考えることに集中できていた。
- ② ビジョントレーニングを毎日寄宿舍で取り組むなど、iPad は本人にとって、かかすことのできない生活の一部になっている。卒業後は、年1回の直接訪問の機会だけでなく、SNS を活用し本人のニーズにそったタイムラグの少ないアフターケアに活かしていく方向を検討している。
- ③ 今回の取組の前に、本人に SNS 利用の有無を聞いたところ、経験はなく、ブログをやってみてほしいと思ったことがあるとのことだった。Facebook は初めてで、今回のグループ作成は、グループ内だけの情報交換になること、メンバーも本人や支援者の了承のもと構成すること、まずは、構成メンバーのみとの「友達申請」を行うこととした。

利用の仕方に慣れてきたころに、自発的に「友達」を広げるようになり、また、個人ページでの投稿も増えてき、投稿内容の公開範囲等プライバシー設定について確認した。グループページへの投稿内容と、本人のページへの投稿内容を考え分けて投稿することができている。しかし、個人のページでは、いわゆる「診断」サイト等への投稿や興味関心のあるアイドル等の画像の投稿もあり、投稿内容が他者へ与える印象や、不特定多数によるアクセス状況など SNS のもつ危険性について指導した。

その後、それらの投稿は削除され、ネットワーク上のマナーを守った投稿が行われている。在学中から、SNS の活用の仕方を学びつつ、ネットワーク上でのマナーや、安全な活用方法、危険な面など、きちんと総合的に学ぶ機会を保障する必要も感じた。